

令和3年度第1回大津町空家等対策推進協議会 議事要旨

令和3年7月29日（木）午後1時
役場2F 町民協働ルーム

- 1 開 会
- 2 委嘱状交付
- 3 町長挨拶
- 4 議 事
 - ① 大津町空家等対策計画の策定について
 - ② 空き家バンクの運営状況について
 - ③ その他

議 事

① 大津町空家等対策計画の策定について

別添資料にて事務局より説明。

（主な質問・意見等）

特になし。

② 空き家バンクの運営状況について

別添資料にて事務局より説明。

（主な質問・意見等）

- ① 登録者数は何の人数か。また、現在登録されている物件は〇件ということか。
（回答）空き家バンクの利用（買いたい・借りたい）を希望している人数である。
現在登録されている物件は無い。

③ その他

別添資料にて事務局より説明。

（主な質問・意見等）

- ① 地域に創作料理店があり、俳優や有名な映画監督が時々来る。そこは元々、所有者が亡くなり空家となった。ボロボロになり、進入路が無くなりそうになった頃、親戚の人から活用したいと相談があり、区役で道を開いた。その後、人が多く来るようになり、知る人ぞ知る名所となった。人の出入りが増え、道も綺麗になった。地域住民の数は減っているが、活力はある。このように地域に豊かさを引っ張ってくる活用の仕方を考え、成功事例を作ると口コミで広がり事業の推進が加速するのではないかと思う。空家の活用にお金がかかると思う方もいる。大津町ならではの資金の集め方、活かし方をすると成功事例を示して、口コミで広がるのではないかと思う。

また、調査の対象となった家屋の築年数を調べたと思うが、文化的な観点から話をすると、50年100年といっても、町の産業的なものであったりすると存在意義がある物件等もある。そういった観点からの分析も行ったほうがいいのではないかと思う。物件を提供する際も、ただ、LDKや下水道が通っていると説明するのではなく、文化的な観点から説明をすることで、利用したいと思う人もいると思う。資金の集まり方も違ってくる。町づくり、歴史文化を大切にするという観点から事業の推進をレベルアップしてもらいたい。

(回答) まず、未利用の空家の掘り起こしを行う。また、建物の価値を見極めながら、空家を利活用した有用事例を紹介し、ただ住む家を提供するだけでなく、使用する人が上手く活用できるようなシステムを作っていく。また、活用するための資金について、クラウドファンディングなど、町が直接できるものでなくても、アドバイスできるような体制も整備していきたいと思う。

- ② 熊本県警では人心安全関連事案（DV、ストーカー等）が多く問題となっているが、一時的に分離させる措置をとる際に、実家が近くにない、転居するにもお金が無い、公営住宅も抽選で当たらない等ある。可能か分からないが被害防止の観点から空家を一時的な避難場所として利用する等の活用できるといいと思う。

(回答) 空家を一時的な避難場所として活用するということが、協力して考えていきたい。

- ③ 親が住んでいた家が親が亡くなったことで空家となっており、相続放棄をすればいいと考えている人が少なくない。相続放棄ができる期間が過ぎている、相続放棄できても親の兄弟やいどこにいくことを知らない、全員が相続放棄できても裁判所で財産管理人を選任するために予納金が何十万かかることを知らないという方が多い。このようなことを周知できるといいと思う。

(回答) 役場だけでは解決できない問題も多数あるため、関係機関と協力の上、対応できる相談窓口を設置し、また、こういった問題を住民に周知していきたい。

5 閉会